

# 膵炎

## Pancreatitis

膵臓とは大きく分けると、食べ物を消化する酵素を分泌する働きと、血糖をコントロールするインシュリンなどのホルモンを分泌する働きの2つをもつ重要な臓器です。この膵臓がなんらかの原因により炎症をおこすことを膵炎といいます。

膵炎には急激に症状があらわれる急性膵炎と急性膵炎が進行して半永久的に障害が残ってしまう慢性膵炎とに別けられますが、動物の場合はなかなかこれを区別することは難しいものです。

### 原因

犬や猫の膵炎の原因は完全には解明されていませんが、食餌中の過剰な脂肪分の摂取、薬物、小腸疾患の波及、感染、外傷などがその主なものとして考えられます。また、ミニチュアシュナウザーにおいては遺伝的に脂肪代謝異常があるため膵炎が起こることがあります。

肥満はその発症ファクターとなる重要な要素です。

### 症状

軽症のものは特異的な症状はなく、他の消化器疾患と区別することが難しい、嘔吐、腹痛、食欲不振などが見られます。重症になると下痢、ショック、腹痛、発熱、黄疸、呼吸困難など様々な症状がみられます。

### 診断法

犬や猫の膵炎の場合、決定的な検査方法がありませんが、疑われる場合は、まず血液検査によりアミラーゼ、リパーゼを検査します。もちろん全身状態を把握するためにほかの血液検査項目も合わせて調べなければなりません。このほか、レントゲン検査、超音波検査によりその存在を疑うことはできます。

### 治療法

まず行うべき治療は絶食により膵臓を休めることです。これと共に点滴により水分や電解質を補正してあげます。その他、抗生物質、鎮痛剤、消炎剤などの投与も症状により用いられます。

また糖尿病が併発している場合には一時的にインシュリン療法なども併用しなければならない時もあります。

この他、お腹の中の洗浄（腹腔洗浄）やガンマー線照射などの報告もありますが、一般の病院であまり行われるということはありません。

### 自宅での看護法

処方された薬剤はきちんと用いましょう。また、食餌

は主治医の先生の指示を守り、通常数日間は絶食、その後は処方食が無難でしょう。もしも、ご家庭でホームメイドされる場合には蛋白質や脂肪は避けて、お米、パスタ、マッシュポテトなど高炭水化物のものが膵臓への負担を軽減してくれます。さらに1度の食餌の量を少なくして頻回与えることも役立つでしょう。

### 予防法

日頃から、きちんとしたメーカーの餌を適切な量給与することはその予防になるでしょう。特に肥満である場合は適切な管理を行わなければなりません。また、病気などで何日も絶食した後に大量に脂肪分の多い食餌を与えると急性膵炎を起こしやすいとされていますので、注意が必要です。

定期的な血液検査などの健康診断は早期発見に役立ちます。

### メモ

膵炎は診断や予後（病気の進行や回復の予測）が難しい病気です。急性の膵炎では重篤な症状で死に至ることもありますので、注意が必要です。

残飯や人間と同じ食餌を与えたり、ほしがらからと言って、ついついおやつを多く与えたりすることはかえって動物のためにはなりません。その場しのぎの愛情ではなくて長い目でみて、健康に気を付けてあげましょう。